

教職実践演習

●教職実践演習とは●

1 教職実践演習の法的根拠と位置付け

教職実践演習は、2006（平成18）年の中央教育審議会『今後の教員養成・免許制度の在り方について』において、教員免許状が保証する資質能力と、現在の学校教育や社会が教員に求める資質能力との間に乖離が生じてきていたことから、その乖離を補い教員としての最小限必要な資質能力を形成し、卒業後の教職生活がより円滑にスタートできるよう、新設が提案された科目である。2010（平成22）年度入学生から必修化された。II章の栄養教育実習で述べたとおり、教職免許法及び教職免許法施行規則の改正において「教育実践に関する科目」に位置付けられ、栄養教諭免許状を取得するためには、必ず修得しなければならない科目とされている（p.15、表II-2）。

2 教員として必要な資質能力

教員に求められる資質能力は、いつの時代にも変わらないものと、社会の変化等に対応するものとがある。

社会の変化等に対応する資質能力のなかには、すべての教員が身に付けるのではなく、多様な個性豊かな人材によって構成される教員集団が連携・協働することにより、学校という組織全体として充実した教育活動を展開すべきものもある。大学等で修得する資質能力は、最小限のものであり、社会の変化や自身のキャリアステージに応じ、生涯にわたって

高めていく必要がある（表III-1）。

とくに、栄養教諭は、栄養の専門性をもった教員である。栄養の世界は、日々進展が続いている。教員としての資質能力を磨くことはもちろん、栄養に関してもつねに新しい知識の修得に努めるなど、学び続けることが重要である。

3 教職実践演習の意義と目的

教職実践演習は、教職課程の総まとめの科目であり、学生が栄養教諭として最小限必要な資質能力を形成できたかを、最終的に確認する科目である。また、大学等の到達目標等に達しているかを判断するために実施される。そのため、教職実践演習は、卒業年次（4年・2年）の後期に履修することとされ、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられている。

（1）教職実践演習の意義

●栄養教諭になるうえで、学生自身が課題を自覚する。

●不足している知識・技能等を補う。

1年次からさまざまな教職課程科目を学修し、栄養教育実習の経験、その他の活動を通して身に付けてきたものが、栄養教諭として最小限必要な資質能力として形成されているかどうか、求められる栄養教諭像に照らし合わせて課題を達成できているかについて、自己評価を行う。課題は一人一人違うので、1年次から定期的に、学修ポートフォリオ等を活用

し、自身が修得した資質能力を確認するとともに、自己の課題を明らかにしておくことが大切である。

（2）教職実践演習の目的

●栄養教諭に求められる最小限必要な資質能力を形成することで、卒業後の教職生活が、より円滑にスタートできるようになる。

教職実践演習は、学生が栄養教諭になるうえでの課題を自覚し、不足している知識・技能を補うためのものである。受講の際は、学修ポートフォリオを活用し、一人一人の学生の課題を学生自身と大学教員の双方が確認し、学生に何が足りないのかを明確にする。それを補うために何が必要なのかを両者が認識して授業に臨むことで、最小限必要な資質能力の修得が可能となる。

教職実践演習では、教員として求められる4つの事項が示されたが、とくに栄養教諭に求められるものとして、本書では「栄養の専門性に関する事項」を加えた（p.9参照）。この栄養の専門性に関する事項は、教職課程の「栄養に係る教育に関する科目」だけでなくp.2のカリキュラムマップで示すように、多くを管理栄養士・栄養士養成課程での学びから修得していくものである。そのことをふまえ、履修カルテ例②（資質能力についての自己評価）を使用し（p.100、巻末資料）、自己評価を行うことが大切である。

4 教職実践演習の授業内容・方法例

初回の授業では、これまでの学修や栄養教育実習の振り返りを行うとともに、グループ討論等で、栄養教諭に必要な資質能力に関する課題について話し合うことで、自己の課題の解決方法等を明らかにする。課題解決に取り組む方法について履修カルテ例②に記入し、学修ポートフォリオに保管する。

2回目以降の授業では、不足している知識・技能等を補い、その定着を図ることで課題を解決する。そのために役割演技（ロールプレイング）、事例研究、現地調査（フィールドワーク）、模擬授業等を行い、自己の課題解決につながるように積極的に取

想定されるおもな授業形式

役割演技（ロールプレイング）

ある特定の教育テーマ（例えば、いじめ、不登校等）に関する場面設定を行い、各学生に様々な役割（例えば、生徒役、教員役、保護者役等）を割り当て、指導教員による実技指導も入れながら、演技を行わせる。

事例研究

ある特定の教育テーマに関する実践事例について、学生同士でのグループ討議や意見交換、研究発表などを行わせる。

現地調査（フィールドワーク）

ある特定の教育テーマに関する実践事例について、学生が学校現場等に出向き、実地で調査活動や情報の収集を行う。

（平成18年中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」（別添1）抜粋）

り組み、これまで学んできた理論を理解したり、身に付けたりしているかを確認する。

また、外部講師の栄養教諭の講話から、給食管理における課題解決方法や他職種との連携、食に関する指導のコーディネーターとしてのあり方、集団や個別の食に関する指導方法等を学び、めざす栄養教諭像と照らし合わせて、より具体的に自己の課題を考えることができる。

表III-2に教職実践演習の授業内容・方法例とともに、栄養教諭として求められる5つの事項①～⑤と授業内容等との関連を示したので、自己の課題解決の参考にしてほしい。

まとめの授業では、学修ポートフォリオ等を活用し、栄養教諭として最小限必要な資質能力を身に付けることができたかを確認する。

5 到達目標と確認指標例

到達目標と確認指標例を表III-3に示した。

到達目標は、栄養教諭として最小限必要な資質能力について、具体的にどの程度のレベルまでの修得が必要か、確認指標例は、どのような観点に基づいて行えば、到達目標に達しているかを確認できる例を示したものである。